[事案 2019-131] 新契約無効請求

・令和2年3月13日 和解成立

<事案の概要>

募集人の不適切な説明を理由に、契約の取消しおよび既払込保険料の返還を求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

平成27年8月に契約した終身保険について、以下等の理由により、契約を取り消して、既払込保険料を返してほしい。

- (1)募集人から、預金で預けるよりも利率が良い貯蓄型の生命保険があると説明されたが、実際は、解約返戻金が払込保険料を下回る保険だった。
- (2)既に参加していた据置定期年金保険と同様の内容（契約して数年後から毎年、年金が支払われる）と理解していたが、実際には払込満了後5年ごとに生存給付金が支払われ、死亡保障が残る終身保険だった。

<保険会社の主張>

募集人は設計書に基づいて、本契約の説明をしており、重要事項について事実と異なる説明をしたとは認められないので、申立人の請求に応じることはできない。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、契約時の状況等を把握するため、申立人および募集人に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、募集人の説明が不適切であったとは認められないが、申立人の年齢や生活状況を踏まえると、本契約を勧誘したことには適合性の点について疑問が残るため、本件は和解により解決を図るのが相当であると判断し、和解案を当事者双方に提示し、その受諾を勧告したところ、同意が得られたので、手続を終了した。